



### みんな的那珂川プロジェクトに参加してきました

5月29日(日)、茨城、栃木、群馬、福島の4県にある動物園・水族館が手を組んだ「FIGHT10(ファイトテン)」の企画で「第1回みんな的那珂川プロジェクト」が開催されました(企画・準備：なかがわ水遊園)。

これは那珂川流域の豊かで美しい自然環境を将来にわたって守り続けていく取り組みで、具体的には河川や川が流れ込む海岸部での清掃活動です。会場は山会場、川会場、海会場の3つに分かれ、かみね動物園からは私を含め4名の職員が参加し、海会場であるアクアワールド大洗水族館に隣接する河口部でゴミ拾いを実施しました。海会場はほかに大洗水族館やなかがわ水遊園などから17名の参加、山会場(那須サファリパーク)と川会場(なかがわ水遊園)を含めると総勢約40名の活動で、動物園水族館のほかに栃木県と茨城県の職員や地域おこし協力隊、ボランティア団体なども参加しました。時間は午後1時に一斉にスタートし、約1時間にわたっての活動です。



《開会!》



《活動開始》



《活動中》

この日は晴天に恵まれ絶好の活動日和だったのですが、気温もぐんぐん上昇し、真夏日を記録するなかでの活動となり、汗をぬぐいながらも大量のゴミを拾うことができました。ゴミはビンや缶などのほか、ペットボトルやビニールなどのプラスチック製品、発泡スチロール、紙製品、飲食物の残りなど実に様々で廃棄タイヤなどもありました。そうそうタヌキの死骸もありました。私たちは休日は海や川に行きリフレッシュしてきますが、何気なく飲んだり食べたりしたものがもしかすると環境破壊に手を貸してしまうのかもしれない。海や川、そしてその周辺には多くの生き物が暮らしています。そうした生物にとってもゴミは迷惑だけでなく最終的には飲み水となる私たちの生活をも脅かすことになりかねません。また、活動を終え職場に戻ると自分の靴に釣り針が引っかかっているのを見つけました。海会場には多くの釣り人がいました。私の足ならまだしも、鳥や魚たちにとっては恐怖の釣り針となってしまいます。「自分の行動から出るものはすべて持ち帰る」という意識を持ってもらいたいものです。たらたらと滴る汗をぬぐいながらそんなことを考えてしまいました。

SDG's が叫ばれる近年、持続的な環境維持活動をこれからも進めていかななくてはならないでしょう。次は若い人に、ね。

(企画や準備をして頂いたなかがわ水遊園様、大洗水族館様ありがとうございました)

※添付のなかがわ水遊園さん発出の報道発表用資料を添付しました。



《大量のゴミ》



《川会場》

(園長 生江信孝)

2022年5月30日

## ウチのチンパンジーたちがテレビに・・・

先日、NHK・Eテレ「ウチのどうぶつえん」という番組で「ウチの」チンパンジーたちが紹介されました。この番組は各地の動物園で話題となっている動物に焦点をあてて紹介する比較的低年齢向けの番組らしいのですが、今回当園に話が合った際は、当該個体の特徴、いわゆるカワイイやカッコイイといった情動的なことや、優れた身体能力などの表面的なことではなくその動物の歩んできた過去にもスポットを当てながら今の状況を紹介したい、というものでした。



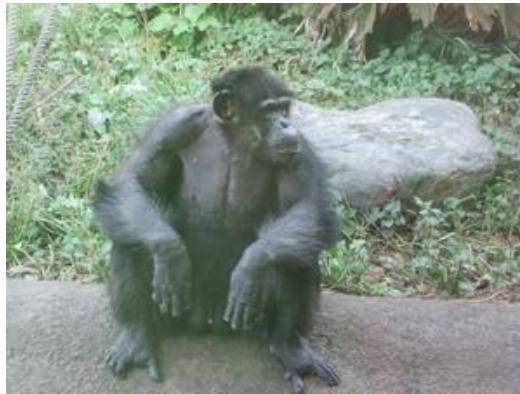
《ウチのチンパンジーたち》

現在8頭が暮らす当園のチンパンジーたちは当然ながらそれぞれに過去を背負っています。その中には、動物福祉が声高に叫ばれる今では考えられないような過去も抱え込んでいます。当園でも以前はチンパンジーのショーをやっていましたが、2008年に来園したマツコも水族館でイルカに乗るショーをやっていました。その後動物園を転々とし結局群れには入れませんでした。ゴヒチは動物実験のため研究機関の檻の中だけで暮らしていました。人工保育のイチゴも群れになじめず1頭だけで過ごしていました。そんなチンパンジーたちを終の棲家として当園で預かることとなったのですが、今回の話を頂いた当初、その担当者はそうした暗い過去を持つ当園の事情を知ったうえであえて依頼をしてきました。しかし過去を消すことはできません。むしろそうした歴史の上に今の動物福祉も成り立ってきたということを一一般の方に伝える格好の機会です。私は躊躇なく協力できる意思を伝え、番組作りはスタートしました。



《マツコ》

担当のディレクターさんはとても熱心な方で、昔の写真や動画などの資料を検証したいという事でしたが、当園では過去の写真などは整理されておらず、ネガフィルムも含めてひとまとめでお渡ししたので整理するだけでかなりの時間がかかったのではないのでしょうか。また、以前飼育されていた関係機関などにも取材されたようですが、当時の話を知る人はいなかったりと、こちらも相当苦労されたと思います。そんな裏付け作業の傍ら、当園にも4日間滞在しチンパンジーの様子などを観察・撮影されていられました。こうした力の入った作業姿勢に私たちも共感し、できる限りの協力体制をとりました。



《ゴヒチ》

その結果、放送された約30分にわたる内容は私たちとしても十分納得のいくものに仕上がっていました。様々な過去を持つチンパンジーたち。結果として、ゴヒチはリーダーとしてこの群れをまとめ上げ(現在のリーダーはユウ)、マツコは当時国内最高齢の初産記録で繁殖に成功し、イチゴも昨年初の出産という明るい話題につながりました。普通なら番組の構成上はまさにメデタシめでたし。しかし今のチンパンジーの森が平和的に機能しているのはあくまでチンパンジーたちの自助作用とそれを可能にした飼育員や環境面のサポートによるもので、私たちとしては特にサクセスストーリー的に仕上げられるのは求めていませんでした。番組も低年齢向けに作られたことが幸いしたのか、淡々とした番組進行がかえって美談仕立てにならず良かったと思っています(担当ディレクターさんはもう少し突っ込みたかったそうですが=笑)。





《イチゴ》



《現在のリーダー、ユウ》

動物園に来るお客様は大体順路通りに動物を見て回り、それで終わってしまいます。もちろんそれはそれでいいのですが、私たちは色んなことを伝えたいとあってそのため解説板やイベントなどで動物のことやそれを取り巻く環境などを伝えています。しかしなかなか限界もありやはり今回のようなメディアが取り上げてくれるのは大変ありがたいことです。番組によってはかわいらしさや興味本位など、単に面白おかしく扱われ、結構忸怩たる思いの時もありますが、今回のような真摯で熱のこもった取材と放送内容は私たちの思いを後押ししてくれたと思います。番組制作は結構大変な作業ですが、取材する側と受ける側の方向性を一つにして力を合わせれば、いいものができるのだなと感じたところです。

SNSなどでも番組を見ての好印象メッセージなどが届けられていますので、見逃した方はぜひNHK+やオンデマンドなどから探してみてください。

※「ウチのどうぶつえん」はNHK・Eテレで4/29午後7:25～7:55に放送されました。

(園長 生江信孝)

2022年5月3日

---

過去の一覧

[令和6年](#)